

## 關東軍の停戦状況報告

参部之内第壹号

關東軍方面停戦状況二

關スル実視報告

昭二〇、八、二六

大本營朝枝参謀

### 第一全般概況

一、滿鮮方面對「ソ」停戦ハ「ソ」側ノ絶大ナル好意ト關東軍總司令部ノ努カトニ依リ極メテ順調ニ進捗シ八月二十六日現在安東、錦州ヲ除ク全滿及北塗二十八度以北ノ朝鮮ニ於ケル停戦竝武裝解除ハ完了シ安東、錦州ニ於テハ隨時武器引渡ヲ実施シ得ル準備ニ在リテ「ソ」側代表ノ到着ヲ待チツツアリ

二、滿内治安ノ状況ハ急遽ナル情勢ノ變転ノ為局所ニ於テハ一部具合ノ悪キ処アルモ全般的ニハ良好平静ニシテ鐵道、交通、通信、工業施設其他諸文化施設ハ殆ント破壊セララルコトナク夫々機能ヲ發揮シツツアリ

三、關東軍内ニ於テハ通信ハ目下大部杜絶シアルト各兵團ハ停戦前作戦行動ノ為頻繁ニ移動シアリシ為關東軍内ノ状況未ダ詳カナラサルヲ以テ極メテ概要ノ現況ト将来ノ処置ニ關シ報告ス

### 第二、關東軍ノ現況

一、停戦後ノ状況

1 一般軍隊

統計	34A	3HA							1HA				4A			軍
	羅南、咸興方面	安東方面	通化方面	大連	錦州 (遼陽地区を含む)	奉天方面	四平方面 (洮南地区を含む)	新京方面 (五叉溝を含む)	吉林、敦北方面	間島方面	牡丹江方面	通河 (方正ヲ含む)	ハルピン方面	千千ハル以西	黒河—綏化	地域
	二〇、 〇〇〇〇 二七、 〇〇〇〇	一三、 〇〇〇〇 四、 〇〇〇〇	二〇、 〇〇〇〇 一三、 〇〇〇〇	一、 〇〇〇〇	一〇、 〇〇〇〇 一三、 〇〇〇〇	六〇、 〇〇〇〇 六三、 〇〇〇〇 四〇〇〇	三〇、 〇〇〇〇 三一、 〇〇〇〇	二〇、 〇〇〇〇 三三、 〇〇〇〇	五〇、 〇〇〇〇	五〇、 〇〇〇〇 五三、 〇〇〇〇	七〇、 〇〇〇〇 七五、 〇〇〇〇	二〇、 〇〇〇〇 一二、 〇〇〇〇	四五、 〇〇〇〇 三二、 〇〇〇〇	一三、 〇〇〇〇 二一、 〇〇〇〇	一五、 〇〇〇〇 一四、 〇〇〇〇 七〇〇〇	軍隊人員概数 (推定)
約四 四三 三七、 〇〇〇〇	一〇、 〇〇〇〇 二七、 〇〇〇〇	一五 四、 〇〇〇〇 一五 八、 四〇〇〇							一九 〇、 〇〇〇〇 一九 〇、 〇〇〇〇				七三、 〇〇〇〇 六八、 二〇〇〇			計

チチハル方面 一、二〇〇  
ハルビン 一、三〇〇  
新京以南 二〇、〇〇〇  
牡丹江 三、〇〇〇  
敦化方面 一、六〇〇  
間島方面 一六、〇〇〇  
北鮮方面 不明

約三〇、〇〇〇以上

二、「ソ」側引渡兵器、弾薬、軍需品等

数量ハ確實ニ掌握シ得サルモ関東軍保有ノ総テノ兵器彈薬、軍需品、軍事諸施設ハ悉皆良好ナル状態ニ於テ

「ソ」側ニ引渡セリ 馬匹モ亦飼料ノ関係ヨリ全面的ニ

「ソ」側ニ引渡シヲ実施シツツアリ

三、軍隊ノ志気、団結等

1 軍隊ハ克ク今次停戦ノ趣旨ヲ解シ一兵ニ至ル迄温順  
総ユル忍苦ヲ甘受シアリテ其状況真ニ涙グマシキモノ  
アリ

2 武装解除後ト難モヨク小部隊毎ニ隊長ノ下ニ団結シ  
整齐タル統制ヲ以テ「ソ」側ノ指令ニ基キ行動シアリ

3 軍内通信ハ武装解除ニ伴ヒ「ソ」側ノ指令ニ基キ停  
止シツツアルヲ以テ関東軍内各兵团、部隊ノ現況掌握  
及統制ハ今後至離トナルヘシ

4 各兵团ハ戦闘ヨリ急遽ナル停戦及兵团ノ移動、輸送  
機関ノ欠乏、武装解除ニ伴ヒ兵員ノ食糧ハ急速度ニ逼  
迫シツツアル外、二ヶ月後ノ寒氣ヲ目前ニシ越冬施設、  
防寒被服ニ関シテモ憂慮極メテ大ナルヲ以テ「ソ」側  
ノ好意ニ依リ善処セララルル如ク鋭意適絡中ナリ

### 第三、在留邦人ノ現況

#### 一、現況

通信杜絶セル為詳細不明ナルモ推定ヲ交ヘタル現況左ノ  
如シ

1 在滿総数約一、三五〇、〇〇〇  
(一、一〇〇、〇〇〇)

2 右ノ内今次戦争開始直後戦場地域爆撃地域ヨリ安全  
地域へ移動セル疎開者

北安方面 三、三〇〇

チチハル以西 一〇、〇〇〇

ハルピン 一五、〇〇〇

新京方面 四〇、〇〇〇

奉天方面 六〇、〇〇〇

錦州 五、〇〇〇

鞍山	一〇、〇〇〇
安東方面	一五、〇〇〇
通化方面	二、〇〇〇
吉林、敦化方面	四五、〇〇〇
牡丹江	五〇、〇〇〇
佳木斯方面	一五、〇〇〇
東安	五、〇〇〇
間島	五一、〇〇〇
平壤方面	六〇、〇〇〇
釜山方面	二〇、〇〇〇

二、以上在留邦人ハ滿州国ニ於ケル文化事業ノ骨幹トシテ活動シアリシモノニシテ之カ疎開、動揺ハ全滿ノ総テノ活動機能ヲ停止スルニ菱ルヘキヲ以テ極力開戦前ノ態勢ニ復帰シ「ソ」側ノ命令ノ下活動ヲ再興スル如ク在留邦人ニ抄テハ「ソ」側ト交渉シ努力中ナリ

三、在留邦人ハ開戦ト同時ニ無準備ニ移動セシ為携帶糧食等欠乏シツツアリ加フルニ留守家屋ハ滿人ノ盜難ニ遭ヒ産ヲ無クシ明日ヨリノ生活ニ窮スルモノ頻發シツツアリ但シ是等モ治安ノ回復、經濟ノ安定等ニ伴ヒ逐次良好ナル状態ニ還ルモノト考フ

## 一、一般方針

内地ニ於ケル食糧事情及思想經濟事情ヨリ考フルニ既定方針通大陸方面ニ於テハ在留邦人及武装解除後ノ軍人ハ「ソ」聯ノ庇護下ニ滿鮮ニ土着セシメテ生活ヲ営ム如ク「ソ」聯側ニ依頼スルヲ可トス

## 二、方法

- 1 患者及内地帰還希望者ヲ除ク外ハ速カニ「ソ」聯ノ指令ニヨリ各員各自技能ニ応スル定職ニ就カシム
  - 2 滿鮮ニ土着スル者ハ日本国籍ヲ離ルルモ支障ナキモノトス
  - 3 以上滿鮮ニ於ケル土着不可能ナル場合ニ於テハ今入冬季前ニ少クモ先ツ軍隊四〇〇、〇〇〇 傷病兵三〇、〇〇〇 在留邦人三〇〇、〇〇〇 計七三〇、〇〇〇ヲ内地向輸送セサルヘカラス
- 而シテ之カ輸送ハ船舶、鉄道ノ運用、輸送間ノ給養等厖大ナル仕事ニシテ一ツニ「ソ」側ヲ通シテ聯合側ニ依頼セサレハ不可能ナル問題ナリ

＊ 「この朝枝報告には、関東軍総参謀長（秦彦三郎中将）の次の文書が添付されている。」

＊

大本營参謀ノ報告ニ関スル所見竝ニ基礎資料

八月二十九日

総参謀長

第一、所見

- 一、全般的ニ同意ナリ
- 二、武装解除後ノ軍隊竝ニ居留民ノ実状ハ衣食住共極メテ深刻ニシテ殊ニ冬季ヲ控ヘ真ニ樂觀ヲ許サス 従テ之カ処理ニ就テハ大本營トシテハ至急聯合國最高司令部トモ話合ヒノ上措置スヘキモノト思考ス

第二、基礎資料

- 一、大部ノ数字ハ推定ニ属スルモ比較的確實ナルモノ左ノ如シ(別冊大本營参謀報告書ニ赤字記入)
- 二、土着不可能ナル場合内地帰還人員数推定ノ基礎左ノ如シ

1 傷病兵 現在数ノ全部

2 在留法人 軍人、官吏等ノ家族ノ如キ滿洲ニ生業

ヲ有セサルモノ竝ニ直接戦場地域前ニ疎開シ在ルモノノ中内地還送希望見込ノ合計概数ヲ約三十万ト推定

3 軍人 滿洲在籍者(滿洲ニテ召集セルモノ)

ヲ除キ約四十万ト推定

(『月刊Asahi』一九九四年二月号)  
(齊藤六郎『シベリアの挽歌』所載の原文と)  
(照合した。漢字は「常用漢字」を使用した)